

専門職向け
広報誌

東部リハビリテーション連絡協議会

Vol.2



NEWS LETTER



リハビリテーション連絡協議会（通称：リハ協）は、保健・医療・福祉・介護などに従事するリハビリテーション関係者が、行政と一緒に市民の多様なニーズに対応できるよう、施設や職種を超えた連携、情報の共有、技術の向上などに取り組んでいます。

今回は、「コミュニケーション支援に使う用具を使ってみた」と題し、運営委員のメンバーで福祉用具プラザ北九州で実際に体験した生の声をまとめてみました！

コミュニケーション支援に使う用具を使ってみたよ！



AMAZING

意思を伝えることを手助けする用具を使ってみて

体を全く動かせない方にとって、視線入力装置は意思疎通だけではなく、パソコン自体の操作もできるため、オンラインゲームやネットショッピングなど活動の幅も拡がりそう！

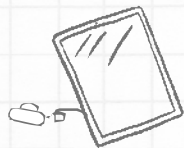
視線入力は便利である一方、ずっと注視しなければならないことが多いため、目の疲れや全身の疲労感に配慮する必要がありますね！





支援機器を操作するスイッチの種類が多いため、我々支援者がきちんと理解した上で、当事者に最も合ったものを選ぶことが重要だと分かった！

スイッチでスマートフォンを操作できる周辺機器を活用することで、元々使っていた端末をそのまま操作でき、ご本人にとって扱いやすいなあ。



わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
り	み	ひ	に	ち	し	く	う	け	え
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	け	え
れ	め	へ	ね	て	せ	け	え		
ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

災害時や緊急時のことも考えると、デジタルだけではなく、アナログの用具（文字盤など）も普段から活用しておこう！

聞こえにくさをカバーする用具を使ってみて

蛇腹状の筒を使って直接耳元に声を届ける用具は、機器のようなハイテク機能はないが、安価で気軽に取り入れやすそう。消毒もしやすので、現場で提案できるかも！

相手にのみ声が届くので、周囲への配慮もでき、顔を見ながら会話もできて素敵だなあ。



以前、一人暮らしの高齢者宅に訪問した際、玄関チャイムが聞こえずに出てもらえないという経験があり、入電や来客を音や光で知らせてくれる用具は、聞こえにくい方に最適！

用具をわれわれ支援者がきちんと把握しておくことで、ご本人の「困りごと」をスムーズに解決へと導くことができますね(*´艸`)
一種類だけではなく、色々な種類の機器情報を積極的に取り入れ、引き出しを増やして今後活かしていこう！

コミュニケーション支援機器を体験したい方は、福祉用具プラザ北九州にご連絡ください



お問合せ先

北九州市 保健福祉局 地域リハビリテーション推進課
〒802-8560 北九州市小倉北区馬借 1-7-1 総合保健福祉センター 3階
TEL 093-522-8724 (直通)